

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム すずらん・らいらっく (ユニット名:すずらん)	評価実施年月日	平成20年2月7日
評価実施構成員氏名	・中村禎子 ・高橋 ・久保田 ・平田 ・山根 ・塚田 ・田口 ・斎藤		
記録者氏名	すずらん 管理者 中村 禎子	記録年月日	平成20年2月7日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	「此处で生活して良かった」と言って頂ける事を目標としたケアに努めている。	地域の特色を把握し理念の意味を深めていく。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	見えやすい所に掲示し、職員全員が周知しやすいようにしている。又、職員会議開催時に、理念について話し合っている。	○ 理念を確認できるようにし、ケア出来るよう、職員会議の中で話し合い具体的に生かされるケアになるよう努力していく。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	入居契約時に説明を行っている。	○ ケアプラン更新時に家族に随時説明していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	散歩時気軽に声をかけることの出来る隣近所もあり、お花の時期には頂いたり、顔なじみが出来てきている。	共働き家庭が多く、限られているが、声かけを意識していく。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	地域のお祭り、運動会等積極的に参加させて頂いている。	自治会の活動にも積極的に参加してもらえよう働きかけていく。
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	運営推進会議のお誘い、イベントの声かけを行っている。	○ 同法人の居宅ケアマネージャーから随時情報頂きグループホーム入居の把握に努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>OJTの資料を活用し自己の評価を行いサービスの質の振り返りを行っている。又必要に応じ職員会議で話し合いを行っている。</p>	<p>○</p> <p>他者の評価も観覧できるようにし、言い合える関係作りを目標にしていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>参加された方より意見をもらい要望を取り入れながら改善していく為の話し合いを行いサービスの向上に努める。また改善策は次回開催時に報告している</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>町独自の運営会議委員会の施設視察を受け入れ改善すべき点を職員間で話し合いサービスの質向上に取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度が必要な方の受け入れをしておらず、学習不足です。</p>	<p>○</p> <p>制度を職員間で学習していき、理解を深めていくよう努力していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に向けての意義は理解しているが、言動を含め十分な学習時間はされていない。</p>	<p>○</p> <p>資料を基に学習に努めていく。(より細かな内容を話し合う)</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間をとり丁寧に行っている。退去に至る内容も詳しく説明を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月町より派遣職員が来られ、外部の視点で声かけして頂いている。又会話の中より利用者様の要望を聞き入れている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月定期的にお便りで現状をお知らせしたり、面会時に細かくお伝えすることを職員周知している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会等、来所されたときご家族の視点で要望を出してもらい、改善に努めている。	○	今後、苦情相談箱を設置し開けたグループホームとしていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	引き継ぎ、職員会議等疑問、質問については、意見の出しやすい雰囲気があり、確認している。管理者不在時は、主任を通して不満、意見を上げてもらい、解決に結びつける話し合いを行っているが、把握し切れて居ないこともあると思う。	○	相談しやすい関係作りに努め、職員の連携が取れるように心がけていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な受診、外出等希望に添えるようシフト調整を行っている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットの固定化を行っているが、必要に応じ移動し利用者様に影響のないようにしている。又移動時はなじみの関係になれるようケアに努めている。	○	ユニットが往来しやすく、移動後でも寂しくない配慮を心がけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	外部研修会の参加、参加者の法人内研修発表を定期的に行い自己研磨を行っている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	釧根地区グループホーム協議会を通して必要に応じた職員研修に参加している。	○ 職員の意欲に結びつくよう、研修の機会を積極的に取り入れていきたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	ストレスの原因は何か職員から出してもらい軽減に努めている。業務見直しも含め話し合ったり、不満等聞く機会を設けている。	○ 外食等声かけているが、時間的に会わず、調整していきたい。気の合う仲間の関係作り
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員一人一人の持つ力を伸ばすため個別懇談を行い意見、要望を聞き入れている。資格取得に向け支援している。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	相談を受けた時点で訪問し生活状況の把握に努めている。又、不安のないよう充分、ご本人の要望を聞いている。	○ 生活歴を情報収集し、関わりを深めていく。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご家族の不安に思っていること、困っていることを充分聞き入れ、事業所として出来ること、出来ない事を説明している。	○ 地域の社会資源に詳しくなり情報提供出来るよう知識をもつ努力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	困っていることの把握と事業所として出来ることの支援をしていく。ご家族、ご本人の思いを充分くみ取るよう傾聴している。	○	他事業所へのサービスも提供していく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事業所を見学して頂き、不安のないよう充分配慮している。本人の情報を職員が周知し、本人の好むことの提供を心がけている。	○	日帰り体験もご家族と協力しながら行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が辛いと言う原因を探り、安心感の持てるケアに努めている。又幅広い視点豊かな人生を送られてきたことを受け止め、共に共有していく事に努めている。	○	ご本人の自慢、得意な分野を聞き出し良い表情となれるようケアしていく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族としての思い、生活背景を充分理解しながら、ご本人の家族を思う気持ちを伝えていき調整している。	○	面会の機会が遠のく様子が見られるときはご家族にさりげなく情報をお伝えし来訪しやすい配慮していく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	自室で過ごしたり、外出に行ったり、時間が許す限りゆっくりして頂けるよう配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の方に会う機会をもうけたり知人が訪ねてきやすいよう、ご家族の協力も頂いている。	○	外出時、ご本人が地域で活躍していた場所や、なじみの方々が居る場所を利用し面会の機会をもつ。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブル時は仲介に入りお互いの訴えを確認し解決策を共に考えて居る。又一定の距離を置いたり、行動に配慮している。	○	一定の距離をおいたり、原因を取り除く配慮と工夫に努める。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	共に暮らして居たときの写真等織りにふれ、提供していき、小さな地域ならではの関わりをもっていく。在宅に戻られた方については、関わりのある人を通し状況を聞いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の生活様式を尊重し、要望に添った対応をしている。又表情から困難と思える様子をくみ取り、普段と違う状況も把握している。	○	希望に添えることを担当が押さえておき、職員間で話し合い更に確認していく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族の来訪にあわせ、生活歴などを聞き取り職員間で情報の共有を図っている。	○	短時間の来訪が多く各職員が聞き取れるよう更に意識的に行っていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身の状況に応じ楽しく参加できるよう場面設定をおこなっている。	○	他者との関係の調整を意識的に行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の希望している事を日常から把握して計画を立てている。又モニタリングも各職員の活発な意見を元に反映している。	○	利用者様の立場に立った思いを常にもち職員の意識向上に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月又は心身の状況にあわせ評価会議の中で話し合いモニタリングで更に本人に適切か話し合いを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録・水分・食事チェック表排泄等、身体に関わる記録を職員が確認している。又日常に変化など個々に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方の来訪者には ゆっくりして頂けるよう場所の提供を行っている。	○	共用スペースの有効的活用、宿泊等いこちの良い空間づくりを意識していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	絵本の会の定期的来訪、移動図書館の利用を積極的に行っている。	○	地域のボランティアの活用を積極的に取り入れていく様働きかけていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のサービス事業者から介護用品を格安に提供してもらったり、居宅ケアジャーより情報提供して頂いている。	○	地域資源を職員が周知出来るよう学習を深める。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域の実情に沿わない例など相談を受けた場合、町の関係窓口に指導頂いている。	○	困難事例が発生した場合、積極的に相談していき、相談解決に向け対応していく。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携があり医療の往診を受けている。認知症について指示や状態について、説明をもらっている。本人の状態を把握し連携が計られている。</p>	○	<p>直接の指示をもらえることで学習を更に深めていく。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者様の認知症症状について職員も観察力を深め、状況に応じ受診の必要性をご家族に説明し支援している。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>気軽に相談できる関係が出来ており、細かな医療相談に乗ってもらえ、職員の医療に対する安心感を得られている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>環境変化により精神的負担を考慮し、医療従事者と相談して対応している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>経過観察を常にご家族に説明し不安のないよう支援に向け常に連携を図っている。</p>	○	<p>ご家族、本人の意向を安定している時期から確認しておく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療の連携協力をもらいながら、介護職員として出来る支援に努めている。又職員の体制、不安による負担の軽減等、困難な事がある場合、連絡できる体制がある。</p>	○	<p>他ユニットの連携も更にもらえるよう協力体制を深めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族の情報を頂くことを重点に自宅訪問し、環境を持ち込めるよう、協力して頂いている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個別記録、排泄チェック表等、職員の記録しやすい場所にあり、守られている。</p>	○	<p>引き継ぎ時配慮、声かけ誘導時の対応を振り返り職員間で確認していく。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の訴えには、出来る限り対応していくことを職員間で確認している。</p>	○	<p>頻回の訴えが多くても、根気よく対応出来るよう業務優先にしない事と、他職員の協力をもらう。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>今希望していることをくみ取り、勤務者間で確認している。大まかな予定を立て対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の要望も取り入れながら、外部美容師の依頼調整を図っている。なじみの関係ができあがり定期的にあうこと事を楽しみにしている。化粧も希望者には行い喜ばれている。</p>	○	<p>女性利用者様は職員の服装にも関心高いため、色や柄にも気を遣い、喜ばれる対応を心がける。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の要望に添ったフリー食、献立表にそって居るが個々のそしゃく状態に合わせて食べやすい工夫をしている。毎月順番で希望を取り入れたメニューを提供している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の嗜好を理解しており、食欲低下時は特に意欲向上に向け小さな目標となるよう取り組んでいる。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄希望ある時はおむつ使用者でも二人介助にて対応し、促しの為水の音を聞いてもらうときもある。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	強い拒否がある場合には職員が共に入りたり工夫の試みを行っている。	○	浴室の雰囲気作りを心がける。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼寝や夜間の個々に合わせた睡眠の確保はされている。不眠時の方には温かい飲み物や眠れない原因を確認、対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	台所手伝いやゲーム、麻雀、将棋等余暇の声かけを行い希望に添った対応を心がけている。ぬりえ、俳句等掲示し共に楽しんでいる。	○	趣味のない方の為に楽しめる事を普段の会話の中から探り出していく。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	混乱のないかたには買い物等本人が払えるよう支援している。又、家族の協力をもらいながら、毎月給料をお渡ししている方もおり、お金を持つ安心感が得られている。	○	本人の満足をもたらうため積極的に取り入れ、その後のケアも職員間で協議していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	自宅への訪問ドライブ、外出等希望に添うようこころがけている。	○	訴えの出来ない利用者様の声も大切にしていよう職員の情報収集していく。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節に応じてドライブ、イベントの参加と外出の機会を設けたり、行事の計画をたて、家族参加のお誘いもしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望されている時はもちろん手紙も要望に添った対応をしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪ねてきて頂けるよう、受け入れている。来訪時のくつろぎスペースも確保している。	○	面会回数が少ないご家族には負担にならないようご本人の状態をお知らせしていく。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々のケアについて特に言葉による威圧的な言動はないか職員同士気をつけている。	○	身体拘束の学習をより深め、意識を高めていきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	立地的な問題(近くに沼があり、危険)社会的な問題(外部からの侵略をふせぐ)等安全に考慮しているが、解錠時間を調整しながら対応している。	○	ご家族の同意は得ているが、解錠に向け更に検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はさりげなく見守り、夜間の定時の安否確認を行っている。	○	行動観察とならないよう、環境になじんだ動きが出来るようにしていきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	適切に使用出来る方については、定期的に確認している。管理困難の方については必要に応じ本人の要望時提供し、見守り後回収している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々のリスクについて定期的に確認している。状態に応じ対策を職員間で話し合っている。	○	個々のリスク点検について予測を含め職員が周知し、安心な暮らしの提供に心がける。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	連絡体制は出来ているが、緊急時の場面に遭遇していない職員もあり経験不足もある。	○	事例を報告し、自己想定をしてもらったり今後起こりうる予測を会議で深めていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の訓練、断水経験もあり利用者様の安全な暮らしの為の意識は持っている。		地域の方の協力を頂きながら訓練に努める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒リスクの高い方の対策について、ご家族の同意を得てセンサーマット、鈴等対応し安全に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	主治医・看護師の毎日往診があり個別の体調管理を行っている。	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	主治医の指示に従い変更時は職員が周知出来るよう連携が図られている。又症状の観察報告を行うことで主治医から詳しく説明を受け職員の学びにも成っている。	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	水分のチェックを行い水分飲用を心がけている。排便促進のため毎日プルーンを提供している。	○ 自然排便をめざして取り組みをしていく。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	食後の口腔ケアに努めているがうがいが旨くできない人には水分を多く飲用対応している。口腔ケア用具は個別に用意し汚れに応じ使い分けている。	○ 負担のない介助を心がけていきたい。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	管理栄養士の指導のもとメニューが作られ、燕下困難な方や嗜好に応じ個別対応している。	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	予防接種の取り組み、職員の自己管理の徹底を行っている。	○ 面会時の手洗いうがいを更に気をつけていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具の消毒、食材の調達は週2回行きつけの店舗にて新鮮な食料の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	近所の方が親しみやすくなるようクリスマスのイルミネーション飾り、畑のそばの東屋等利用しやすい様工夫している。	○	近所の方にもきて頂きやすい声かけしていく
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせて装飾を変えたり、声や足音に配慮している。職員も環境と意識確認している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間スペースを利用しいくつかの空間に分けつつろげるような場所をもうけている。個別に対応が行われておりその時々に合わせて過ごされている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人のなじみの物があり意向にそっていると思われる。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常時換気扇を使用し臭いの対策をしている。温度湿度管理は加湿タオルやこまめな換気で行えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>段差をなくし、車いす・歩行器を用いてご本人ので移動できるよう配慮し、手すり、テーブル等を必要に応じ利用して頂いている。歩行の妨げになることがないか、定期的に検証している。又気軽に隣のユニットに訪問できる環境作り、他ユニットの職員とも馴染みの関係になっている。</p>	<p>○</p> <p>新規の利用者様の入れ替えにより食卓の位置、居間の配置も都度検討し居心地の良い暮らしを提供していく。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>可能な限り、本人の意欲のお手伝い、得意を生かしていただけるよう、見守り援助している。又、失敗も温かく見守る力量もつけ、意欲を支援している。</p>	<p>○</p> <p>利用者様の自主性を奪わないよう十分配慮していくことを心がける。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑、東屋、玄関前での茶話会等その時々に応じ楽しめるよう工夫している。</p>	<p>○</p> <p>明るい雰囲気となるよう、花の色を意識したり、小物等を用い工夫していきたい</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>本人の希望に添うことで、安心した暮らしができる為。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>余暇活動時寄り添ったり、職員が動き過ぎないように対応を意識的に行うことでゆったりした雰囲気になっている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>介助の必要な方については疲労感など体力も考慮し対応している。自立している方はおおむね満足している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>本人の希望、出来る力を最大限理解することで、生き生きした表情がみられる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>介助の必要な方は体調を確認しながら行っている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>医療の連携と往診を受けており、健康管理に配慮している。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>細かな観察により、早期発見に努め、安心出来るよう配慮している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時、運営推進会議でご家族の思いを受け止められるよう、努力している。又、話しやすい雰囲気を心がけている。</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>ご本人の知り合いと会うことで記憶が鮮明となり、生き生きした表情が見られる。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p> <p>回を重ねることで信頼関係が出来、協力いただけるようになってきている。</p>
98	職員は、生き生きと働けている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>目的意識を持って、利用者さまと関わり、楽しんでいる事を実感することで、さらに笑顔を引き出す努力をしている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>職員がいきいきと関わり、笑顔を引き出す努力をすることで満足を得られている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>利用者の情報を提供し、ケアプランにそった対応をすることで概ね満足を得られている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 1日1回の体操、利用者希望のマージャン、花札、出来る限り本人の要望する事に答え、対応しています。介助者の多い中、個々の訴えを大切に対応しています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームすずらん・らいらく(らいらく)	評価実施年月日	平成20年2月7日
評価実施構成員氏名	・坂本 ・湯山 ・板垣 ・大森 ・小野 ・工藤 ・宗山 ・中出		
記録者氏名	らいらく 管理者 坂本 真弥	記録年月日	平成20年2月7日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスとして、住み慣れた地域のなかで一緒に暮らし、楽しみのある生活を送れるよう、ケアに努めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングにおいて、理念を再確認し、統一したケアを行えるようにしている。</p>	<p>共有スペースに理念を明示しており、いつでも確認出来るようにしている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には来所時等繰り返し伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩、買い物などをとおし、近隣の方たちと交流できている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域行事(文化祭、お祭り、運動会等)積極的に参加している。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>サービス担当者会議等で話し合い、取り組んでいる。共用型認知症デイを開設し、取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングをとおし話し合い、改善に向けて実践できるよう取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加者の意見を反映し、取り組んでいる。		家族の参加が少ないため、より一層はたらきかけるようにする。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホーム内行事等には、声をかけ参加してもらっている。		こちらから市町村にアプローチしていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見が必要なケースは今までに無く支援出来る体制が整っていない。		講習会の参加、勉強会を開き、熟知し支援していきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	講習会、勉強会をとおして、理解を深めるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に説明等を行い、十分に説明、理解を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>定期的に介護相談員に来訪していただき、相談にのって頂いている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>毎月、担当スタッフによりお便りにて報告している。家族来訪時には、都度報告している。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族来訪時には、なんでも言ってもらえるような関係作りや雰囲気作りを心掛けている。都度ミーティング等で話し合っている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のミーティングにて、意見を出してもらっている。定期的ではないものの個別面談を行っている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>話し合いはしているものの、柔軟な対応が出来るようにまではいたっていない。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>各ユニットの職員を固定化して馴染みの関係作りを心掛けている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修等定期的に行い、研修報告には基本的に全員参加してもらっている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会の会合等定期的に参加し、情報交換している。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務の見直しを図る等、ストレス軽減に努めている。実際に職員の不満等、聞く機会をもうけている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得に対する奨励や援助、管外の研修会参加に対する援助を行っている。資格に対する手当、ケアマネ試験対策受講等、出張による研修受講。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談を受けた時点で訪問し、生活状態についての把握に努めている。又、不安の無いように充分本人の要望を聞くようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族が困っていることを充分聞き、事業所として出来ること、出来ないことについて十分に説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用予定者、家族に見学にきてもらい、十分に説明している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事業所を見学してもらい、不安の無いような関わりを充分配慮していく。情報を職員が周知し、本人の好むことへの提供を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	当ホームの理念である、一緒に、のんびり、楽しみのある生活を心掛け、一緒に過ごしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いを察知し、互いに情報共有し、関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事等、家族をお誘いし、一緒に過ごされる時間をよりよいものにするため、努力している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出する機会を定期的に作り、本人の希望に出来る限りそえるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフ間で情報共有に努め、レクリエーション、外出、お手伝い等行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事等にはお誘いし、一緒に楽しんでいただけるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の声に耳を傾け、家族からも情報をいただくように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の声に耳を傾け、家族からも情報をいただくように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	スタッフ間で情報を共有し、生活リズムを理解するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族からも情報を得ながら、本人のニーズをくみ取り職員全員でモニタリング、ケアカンファレンスを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族、本人の要望、身体状況に応じて見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を参考にして見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	共用型通所サービスを開始し、グループホームの多機能性を強化した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的に図書館バスを利用できるように連携をとっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望により、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらうことにより、関係が強化された。包括支援センター定例会議に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>法人内訪問診療を毎日(日曜、祭日を除く)行い、関係を密にしている。日曜、祭日については、連絡をとれる体制にある。</p>		
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>法人内医師との連携、関係がしっかり整っている。</p>		
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護師には毎日(日曜、祝日を除く)来てもらって、医師とも連携を密にとれる体制が確保されている。</p>		
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院先又はかかりつけ医とも連携を図り、家族と情報交換しながら対応している。</p>		
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>医師、家族、職員による説明、話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、職員、医師が都度説明し、支援している。</p>		
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人、家族の意向を大切に、随時確認しながら対応している。急変時には医療機関との連携を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>今までの生活環境、支援の内容等、情報提供し、ダメージを最小限にするよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ミーティング時に再確認し、プライバシーを損ねない対応を徹底している。</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>いくつかの選択肢を用意し、利用者自身が決定し、納得できるように支援している。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>各利用者の意志、体調を最優先し、出来る限り個別性のある支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>基本的に本人の意志で決めてもらっている。理美容は本人の希望を聞き対応している。自己決定がしにくい利用者には、訪問美容にてカット、パーマ等対応している(家族と話し合い)</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者と一緒に準備、食事、片付けを行っている。定期的に利用者にも、1番食べたい物を聞き、メニューに取り入れている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調面で医師と相談しながら、出来るだけ希望にそえるように支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを全職員で情報共有し、対応方法を話し合い、対応している。排泄チェック表を使用し、適切な誘導をするよう心掛けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望にそえるように、午後からはいつでも入浴できるようにしている。気の合う利用者同士一緒に入ってお互い背中を流し合われ、楽しく入ってもらっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動性をある程度重視して、夜間安眠できるよう支援している。寝付けない時にはホットミルクを提供したり、スタッフと話をしたり対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意な分野の仕事等、見つけ出し、喜び、達成感、満足の得られるよう場の提供に努めている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を持つことで混乱する利用者もいるも、管理できる利用者には少額を管理してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望によって外出、ドライブ、外食など随時支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間の行事として計画したり、要望等あった場合は、職員で検討しシフト調整等行って支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙のやりとりは気兼ねなく出来る支援をしている。電話に関しては利用者の希望に応じ対応している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	研修、講習に参加した職員が、職場内で報告会を行い、職員全員で共有、認識を図っている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	日々のケアについて特に言葉による威圧的言動は無いが職員同士気をつけている。 身体拘束については、事業所内で再確認を行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	立地的な問題(近くに沼があり危険な所がある)と社会的問題(外部からの侵略を防ぐため)があり鍵をしているが、安全に配慮し、解錠時間を調整することも行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は、早番、日勤、遅番者と連携をとりながら常に見守りをを行っている。夜間は2時間ごとに利用者の様子を確認している。</p>		
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物などは必ず職員の見守りの中で使用している。裁縫道具は貸し出した物品、数を確認し、他職員にも声掛け、対応している。</p>		
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ミーティング等で共有認識を図っている。万が一事故が発生した場合には、報告書を作成し、家族への説明、今後の対策について話し合っている。</p>		
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>年2回の訓練を行っている。又、救急救命の講習などに参加している。</p>		
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的に消防署の協力のもと、利用者とともに避難訓練を実施している。</p>		
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>家族に説明し、状況に応じて一緒に話し合っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所まわり、調理器の消毒に努めている。週2回の買い物であまり在庫を置かず、整理し、足りない場合は買い足す等、気をつけている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には花を飾り、ベンチを設置してお茶を飲んだりできるスペースを設けている。あずまやがあり、多数で外の空気を吸いながらくつろげるスペースを確保している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに利用者一緒に装飾している。メニューは季節にあった食材で対応している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居間、和室の他に窓の所に椅子を設置しており外の景色を見ながらくつろげるように対応している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた日用品を持ち込まれ、居心地のよい部屋になるよう心掛けている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度、湿度を確認し、調整している。換気ファンを使用している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者の状態を常に把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員が常に本人の気持ちになって、不安を取り除けるように話し合い、支援している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダにベンチの設置、あずまの活用、小規模の畑、バーベキューのできる芝生スペース等、多数で楽しめるよう環境を整えている。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>担当スタッフを中心に、情報共有、統一したケアに努めている。</p>
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>早番、日勤、遅番で連携を図りながら、行っている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様の生活習慣を尊重し、個別ケアに努めている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>各利用者様の必要とされているケアがスタッフ理解しており対応出来ている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様の希望を受け入れ、スタッフ連携を図りながら対応している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>かかりつけ医、看護師が毎日訪問され、対応している。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者様の状況、思いを各スタッフが率直に受け止め、スタッフ間で情報共有しながら対応している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>面会時、場合によってはこちらから連絡し、対応し、ご家族様の思い等、率直に受け止め対応している。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>共用型通所サービスを開設して以来、入居利用者様、通所利用者様との活気のある対人交流の場となっている。ご家族様が面会によく来ていただくことで、他利用者様と馴染みの関係が出来ている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	ご家族様の意向を受け止め、情報共有し、一層信頼関係を築き、よりよいケアを目指したい。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	ユニット内で連携を図り、よりよいケアを実践するために、今後もスタッフミーティング、個別面談を行い、各スタッフの思い、アイデア等取り入れていきたい。笑顔の絶えないホームづくりを目指したい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	利用者様ご本人の意向を第一に考え、ケアに努めている。今後も家庭的な雰囲気を大切に、安心して過ごしていただけるように対応していきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	情報を細かに提供し、ケアサービスの実践を説明している。より一層ご家族との信頼関係を密にし、ご本人、ご家族様に満足していただけるよう、個別的ケアに努めたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 共用型通所サービスを開設して以来、入居者様と通所利用者様でとてもよい交流の場が出来、活気ある雰囲気になっております。一緒に外出する機会も増え、今後も対応してまいりたいと思います。